

履修証明プログラム AI の活用と DX の推進

科目名	生成 AI とビジネス Generative AI and business		-	-
学期・曜日・ 時限	春・木・5 限	-	-	-
担当教員名	宮崎 淳	e-mail		
<p><講義の概要と目的></p> <p>本講座は、生成 AI の基礎からビジネス応用までを学び、AI を活用した戦略立案と事業提案スキルを身につけることを目的としています。授業では技術的側面、倫理面、注意点と応用例を学び、演習ではグループでのディスカッションや生成 AI の実践的活用を行います。最終成果として事業提案ピッチを完成させ、レポートを提出します。</p> <p><到達目標></p> <p>生成 AI の基礎からビジネス応用までを学び、AI を活用した戦略立案、データ分析、事業提案スキルを実践的に習得し活用できることを目標とします。</p> <p><アクティブ・ラーニング要素></p> <p>本授業では、生成 AI を活用した情報収集や分析、グループディスカッションによる戦略立案、事業提案の作成とプレゼンテーションを通じて、学生が主体的に学び、実践を通じて理解を深めることを重視しています。</p> <p><講義計画></p> <p>1 回目：<生成 AI の基礎とビジネス応用の可能性></p> <p>概要：生成 AI とは何か、その仕組みとビジネスにおける活用可能性を学ぶ。国内外の最新事例を紹介し、応用領域を広く理解する。</p> <p>到達目標：生成 AI の基本的な概念とビジネス活用の全体像を把握する。</p> <p>2 回目：<生成 AI の技術的基礎></p> <p>概要：大規模言語モデル（LLM）やディープラーニングの基礎を解説し、生成 AI がどのように動作するかを学ぶ。非技術者向けに平易な説明を提供。倫理面、注意点についても言及し、理解を深める</p> <p>到達目標：生成 AI の技術基盤を理解し、専門用語に慣れる。</p> <p>3 回目：<顧客企業・競合企業の分析手法></p> <p>概要：顧客や競合の中期計画や事業戦略を調査し、生成 AI を活用して情報を効率的にサマライズする手法を学ぶ。</p> <p>到達目標：生成 AI を用いた効率的な情報収集と分析方法を習得する。</p> <p>4 回目：<技術と市場の相関分析></p> <p>概要：技術戦略の分析方法を学び、生成 AI を活用して市場の動向や自社の強み・弱みを明らかにする。</p> <p>到達目標：技術と市場の関係を分析し、データに基づく判断力を高める。</p> <p>5 回目：<ビジネスチャンスの特定></p> <p>概要：強み・弱みの分析結果から、自社の攻めどころを特定し、生成 AI で候補をリストアップする。</p> <p>到達目標：ビジネスチャンスを効率的に抽出するスキルを身につける。</p>				

6回目：＜攻めどころリストの評価＞

概要：リストアップされた候補を評価し、市場的成功の可能性を検討する。生成 AI を活用した評価基準の設計も学ぶ。

到達目標：成功可能性の高い事業アイデアを選定する能力を養う。

7回目：＜事業提案資料の作成＞

概要：生成 AI を活用して、事業提案資料を効率的に作成する手法を学ぶ。グループ演習で初期案を作成する。

到達目標：説得力のある事業提案資料を生成 AI で効率的に作成するスキルを習得する。

8回目：＜生成 AI を活用したビジネスシミュレーション＞

概要：提案事業のシミュレーションを行い、生成 AI を活用して仮説検証やリスク分析を行う。

到達目標：AI を用いた仮説検証の手法とリスク分析能力を習得する。

9回目：＜事業提案ピッチの準備＞

概要：最終発表に向けて、グループごとに生成 AI を活用したピッチスライドを作成し、フィードバックを受ける。

到達目標：効果的なピッチ資料を作成し、プレゼンテーションスキルを向上させる。

10回目：＜最終発表と講評＞

概要：各グループが生成 AI を活用して作成した事業提案をピッチ形式で発表し、講師、他グループおよび外部評価者からのフィードバックを受ける。

到達目標：講座全体で学んだ内容を統合し、事業提案を通じて成果を発表する。

＜講義の進め方＞

説明、解説により講義を進めるが、1、2回の早い時期より演習とグループワークを実施する。10回目は外部へも含めた発表により講義を進める。

＜事前事後学修内容＞

特に前もって準備するものはない。事業アイデア・技術のタネをもっていることは望ましい。しかし、それも生成 AI と相談しながら作っていくことを想定している。

＜予習・復習時間＞

各回の予習・復習には生成 AI を活用することで、圧倒的に効率が上がることを体験する

＜教科書及び教材＞

講義に使用するテキストは配布する。

＜参考書＞

（1）AI 全体

「AI 白書 2023」、AI 白書編集委員会編、KADOKAWA、2023 年 5 月

「深層学習教科書 ディープラーニング G 検定(ジェネラリスト)公式テキスト 第 2 版」、翔泳社、2021 年 4 月

（2）ChatGPT 解説

「ChatGPT 資本主義」、城田真琴、東洋経済新報社、2023 年 9 月

「ChatGPT の頭の中」、スティーブン・ウルフラム、稲葉通将監訳、早川書房、2023 年 7 月

「ChatGPT エフェクト」、日経ビジネス他編、日経 BP、2023 年 6 月

(3) 大規模言語モデル

「大規模言語モデルは新たな知能か」, 岡野原大輔, 岩波書店, 2023年6月

(4) 生成AI利活用

「生成AI導入の教科書」, 小澤健祐, ワン・パブリッシング, 2023年10月

「キーエンス思考×ChatGPT時代の付加価値仕事術」, 田尻望, 日経BP, 2023年10月

「上流から下流まで 生成AIが変革するシステム開発」, 酒匂寛, 羽生田栄一, 2024年9月, 日経BP

(5) 倫理・ガイドライン

「ChatGPTの法律」, 中央経済社編, 中央経済社, 2023年7月

「生成AIの法的リスクと対策」, 福岡真之介, 日経BP, 2023年10月

(6) 未来動向

「シンギュラリティは近い」, レイ・カーツワイル, NHK出版, 2016年4月

「LIFE 3.0」, マックス・テグマーク, 紀伊国屋書店, 2019年12月

「ポストヒューマン誕生」, レイ・カーツワイル, NHK出版, 2007年1月

「AI2041 人工知能が変える20年後の未来」, カイファー・リー, チェン・チウファン, 文芸春秋, 2022年12月

<成績評価方法>

欠席4回以上は成績評価しない。

期末レポート、ディスカッションへの参加度・貢献度を4:6の比率にて評価する。

<課題(試験やレポート等)に対するフィードバック方法>

講義内、Teamsにてフィードバックする。

<履修条件>

生成AIに関する実習を行うため、講義中にインターネットによる生成AIが使えることを条件とする。実習を行うに当たり有料の生成AI(ChatGPTの最新版)の登録を行う。(費用は個人持ちとする)

<ディプロマポリシーとの関連>

アントレプレナーシップ発揮に必要な専門的かつ実践的知識の学修に該当

<録画映像の視聴> 可

<オフィスアワー>

水曜日3限

その他の時間であっても可能(特に夜間)である。事前にメール等にて連絡し、スケジュール確保のこと

<その他>

講義で使用するテキストに加え、参考書、およびAIに関する技術・ビジネス分野に関する書籍、新聞記事を適宜学修のこと